事業所における自己評価結果(公表)

<u>公表:令和4年 12月 29日</u>

事業所名 放課後等デイサービス カレッジガーデン

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	14	1	0		
	2	職員の配置数は適切である	14	1	0	送迎車3台に対して5名の看護師が居るので職員 のスキルを上げて対応していく	配置数の基準は満たしているが、児発と放デイの送迎が重なる時間帯に看護師が不足していると感じることがある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	13	2	0		放デイ側の出入り口からの入 室時、段差に不便さを感じる →今後はスロープを設置する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	15	0	0	共通の情報ツールを利用し情報共有し更に振り返 りが出来るようにしている	
	(5)	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	15	0	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	14	0	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	1	0	14	5月より多機能型から事業別となったので来年度第 三者評価を行う	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	14	0	1	呼吸器の研修は毎年行っている。 機種が新しいものが出る為都度の勉強と確認の為の研修会を行っている	緊急時の対応の手順やデバイスや機器の使い方、トラブル時の対応方法などの研修を受けたい→予定されている
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	14	1	0		
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	15	0	0	人体像を用いて見て直ぐわかるように細部に渡り記 入しやすく分かりやすく作成している	
	11)	活動プログラムの立案をチームで行っている	15	0	0	保育士5名が毎月ごとに別の者が担当立案し12か 月同じような支援にならないよう2~3か月前には話 し合いをし決定され実行している	
適切な	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	15	0	0	月ごとに担当を変え、様々な角度からの立案がなされている	
支援	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	15	0	0		
の提供	14)	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせて放課後等デイサービス 計画を作成している	14	1	0	子供達の下校時間がパラパラの日もある為、集団 活動を行いにくい現実もある。皆、個性が有り個別 プログラムになりがちだが同年代の子供達と同じ空 間に居られる事は喜ばしい事だとかんがえ支援計 画を作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	15	0	0	当日は最終確認となり前日に担当が発表され支援 計画の上での担当者と当日の担当者が連携分担し 支援が行われている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	15	0	0	終了時、全員参加。送迎等で参加出来ない者は日 報を確認する。ヒヤリハット、変更事項、情報共有を 行い翌日の支援。次回同じ事を繰り返さないように する	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17)	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	15	0	0	日報、カルテを作成し検証・改善を行い同じ失敗を繰り返さないようにする	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	15	0	0	日々モニタリングを行い新たに計画に加えるか修正 する必要性を検討している	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	15	0	0		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	15	0	0	ZOOM会議だと移動時間が必要ない為参加しやすい環境となるので積極的に参加している	
	21)	学校との情報共有(年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、 連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡)を適切に行っている	15	0	0		
関係機	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	15	0	0	医療行為が多い子供達がほとんどで有る為指示書 をベースに連絡・連携体制をしっかり行っている	
関や保護者	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	12	1	2		
との連携関係機	24)	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	3	4	まだ卒業生が出ていない	
機関や保護者と	25)	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	15	0	0		
の連	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	5	0	10	コロナ禍の為交流を控えている	
携	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に 参加している	15	0	0	管理者高舘が自立支援協議会、児童部会、障害推 進協議会へ積極的に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	15	0	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	14	0	1		トレーニングではなく相談程度 に留まる
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等に ついて丁寧な説明を行っている	15	0	0	契約時に説明し不明な事は常時電話を受ける事、 常に事業所にて閲覧出来る事等説明している	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31)	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	1	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	5	1	9	夏祭りで保護者同士の連携の場を提供する予定 だったがコロナで開催を中止とした。今後は様子を 見て行っていきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	15	0	0		
	34)	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	15	0	0		
	35)	個人情報に十分注意している	14	1	0	会報、インスタグラム等不特定多数が拝視聴する 物に対し顔や個人が特定できないようにしている	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	15	0	0	障害の有る子どもも無い子どもも同じように情報伝達することが真の平等であり配慮になっていると 思っている	
	37)	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	13	0	2	消毒やマスク着用等注意しクリスマス会に参加して もらったりしている	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に 周知している	14	1	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	15	0	0		
非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	10	2	3		
	41)	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	2	2		協議はあるが計画書には記載していない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	15	0	0	夏のスイカ、秋のさつまいもは事前にアンケートで 調査を行い対応した	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で 共有している	13	1	1	ヒヤリハット事例集を蓄積している。毎日の終礼時 に共有している	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。